

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 故金原賢之助博士主要著訳書   |
| Sub Title        |   |
| Author           |   |
| Publisher        | 慶應義塾経済学会  |
| Publication year | 1959  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.52, No.3 (1959. 3) ,p.285(91)- 286(92)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            | Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19590301-0091">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19590301-0091</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の弔詞のうちによく述べられている。通信教育部の創設、さらに商学部の新設などそのほか、義塾の新しい企画とその実現については、欠くことのできない人物であった。彼の創意と熟慮と適確な判断、さらに計画の円滑な実現の過程に於ける努力と忍耐等々は、なかなか他の及び得るところでない。金原君を知る人は、彼に事を託すれば、必ず円滑に且つ完璧に成し遂げてくれるという信頼を持っていた。

慶応義塾が新しい段階に進むに当って、金原君に期待するところが多かったし、彼もまた自己の生涯のすべてを義塾に捧げることを本懐としていた。商学部の創設には中心となって尽力したのであるから、せめて第一回の卒業生を出すまでにはとも思っただであらうし、そのほか、まだまだやりたいと思うこともあつたらう。昨年二月中旬慶応病院の病床に臥してから一年、殊に金原君は不治の病(癌)であることをよく知っていたのであるから、心の苦しみも強かつたらう。さぞ残念であつたらうと思う。昨秋、小康を得て、義塾創立百年式典に列席したが、人目には元気そうにも見え、努めて常のように穏かな微笑を示していたが、内奥にははげしい精神的苦闘に悩んでいたのではないか。壮重・厳肅な式典の進行を見つめ、心に刻みつけながら、不治の病を思つて暗涙をのんでいたのではなからうか。

本年一月に入って病状が進み、痛研究所附属病院に入院した。自分の病氣のことを余りにもよく知っているのであるから、見舞のことばにも困るので、若い友人から聞いた話などをしたら、おかしそうにかすかに微笑していた。彼の病苦を一瞬でも和らげることができたとすれば、せめてもの慰めに思う。その時、金原君は「ぐずぐずしているうちにひどく衰弱してしまつた。てん滴の時など一時間から一時間半かかるので退屈する。気分は非常によい。ただ今日のように輸血すると三十七度五・六分になる」と書いた紙片を私に渡した。これが私にとって金原君の絶筆になった。それから五日後の一月二十八日夜に病状が急変して、満六十一歳二カ月の生涯を終つたのである。

故 金原賢之助博士主要著訳書

E・ベルンシュタイン著 マルクスリズム批判(訳) 岩波書店

大正14

国際金融総論(世界経済問題叢書1) 同文館 昭和6

F・ミユラ著 為替相場と物価 同文館 昭和6

金の問題 春秋社 昭和7

金本位制度の動揺と存続性 東洋経済社編 昭和7

フィッシャー著 アメリカ株式恐慌とその後の発展(小高泰雄共訳)

同文館 昭和7

貨幣制度の動向と本位政策上の若干の問題 春秋社 昭和8

為替政策 春秋社 昭和8

国際資本及び金融争鬪戦 春秋社 昭和8

国際貸借の現状 春秋社 昭和8

貨幣の実際 非凡社(実用経済講座第一巻) 昭和9

外国為替・金・銀 東洋出版社 昭和9

世界経済の動向と金本位制度 巖松堂 昭和9

世界貨幣制度上の若干問題 改造社 昭和10

貨幣ブロックに関する諸問題 東京銀行集会所 昭和10

為替相場及び為替政策 非凡社(実用経済講座第九巻) 昭和10

S・E・トーマス著 産業金融論(門脇良教共訳) 同文館 昭和

10

A・フィッシャー著 貨幣の購買力(高城仙次郎共訳) 改造社 昭和10

銀行実務法規解説 非凡閣 昭和11

金・貨幣の若干の問題 巖松堂 昭和11

通貨政策と世界経済 言海書房(「国際経済研究第一報」収録)

昭和11

戦時経済と資金統制・金政策の発展と動向 時潮社 昭和12

戦争と財政金融 財政金融研究会 昭和12

金融論講義案 昭和12

金融論 第一・二・三号 慶応出版社(慶応義塾大学講座経済学)

昭和12

欧州経済の危機 日本青年外交協会 昭和13

金融の常識 千倉書房(商業常識講座) 昭和13

金融統制と貿易政策(浜田恒一共著) 改造社 昭和13

資本輸出 改造社 昭和13

国防経済論 日本評論社 昭和13

戦時経済と銀行 全国地方銀行協会 昭和13

日本戦時物価政策論 千倉書房 昭和13

インフレーションと国防経済(荒木光太郎編「インフレーション」

収録) 日本評論社 昭和13

北支における貨幣金融問題(国際経済学会編「北支経済の根本問

題」収録) 刀江書院 昭和13

G・カッセル著 金本位制度の没落(訳) 金融研究会 昭和13

ナチスドイツの経済及び金融(永田清・町田義一郎・高木寿一共

訳) 金融研究会 昭和13

国際金融及び外国為替 第一・二・三巻 慶応出版社(慶応義塾大

学講座経済学) 昭和13~14

日本戦時物価政策論 千倉書房 昭和14

支那事变下における法幣と其の前途(国際経済学会編「新支那建設

の政治経済問題」収録) 刀江書院

戦時金融及び金融政策 東京銀行集会所 昭和15

戦時世界経済の物価通貨為替 千倉書房 昭和15

物価統制政策 慶応出版社(現代経済新書8) 昭和15

為替理論概説 甲文堂書店(最近経済問題叢書) 昭和15

国際決済銀行(千種義人外四名共訳) 金融研究会(世界金融情勢第

3) 昭和16

ブール著 ナチス・ドイツの金融政策(柄沢日出雄外共訳) 金融研

究会 昭和16

金融統制論 実業之日本社(日本国家科学大系10) 昭和17

経済学研究五講(編) 泉文堂 昭和24

世界と日本(編) 金星堂 昭和26

現代の日本経済(編) 金星堂 昭和27

外国為替の基礎理論及び問題 泉文堂(外国為替論第一部) 昭和27

(注) 右のほか「三田学会雑誌」をはじめ各方面の雑誌に発表さ

れた論文は多数にのぼるが、紙面の都合上省略した。「三田学会雑

誌」に発表のものは既刊総目録を参照されたい。